

**Regional differences in the Asian shark fin market:  
a comparison of Japan, China and Southeast Asia.**

シェリークラーク (遠洋水研)

Shelley Clarke (NRIFSF)

要約: 世界のふかひれ市場の中心は東洋、特に香港で、好まれるふかひれには、各国で特徴がある。香港では、ふかひれ業者は高品質が要求される中国人市場で販売をしているので、大型で厚く、そして繊維密度の高いふかひれを求められる。ふかひれを注文することは中国人社会では富の象徴なので、形のそろった大型のふかひれが求められ、合成品は好まれない。また、中国人社会では大きくて力があるサメのふかひれは薬効が高いと考えられている。そのため、ヨシキリザメやシュモクザメなどの大型のメジロザメ類が好まれる。現在、香港では世界のふかひれ市場の 52%を左右しているが、中国の輸入が増えてから、香港の市場占有率は減少している。

日本にはふかひれを食べる固有文化はなかったため、日本で売っている品はしばしば調理済のバック加工品である。そのため、日本のふかひれ製品はすでに繊維が分離しており、合成ふかひれ繊維が混入する場合が多い。しかし、日本では製品にふかひれを 10 パーセント以上含めば合法的にふかひれと呼ぶことができる。ふかひれを食べる日本人にとって、もっとも大切な点は食品の品質と安全であり、次に値段である。そのため、日本で売っているふかひれ製品はほとんど日本で作っているか、またはふんだんにサメ資源がある国で日本の会社が管理する工場で作った製品である(例えばインドネシア製)。日本はふかひれの輸入量と漁獲量していないので、日本のふかひれの市場の大きさは推定しにくい。

タイ、シンガポールおよびマレーシアでは、安価で小型のふかひれのほうが人気が高く、ツノザメ類やドチザメ類は香港よりもよく見られる。日本で見られる繊維が短くて分離していて、合成品の混入する製品もよく見られる。しかし東南アジア人はにせもののふかひれを買わないように注意している。これらの国では、合成ふかひれが含まれて製品に適切な標示がない場合は、非合法である。中国人市場で高品質のふかひれを独占する傾向が強まると他の市場では材料を入手しにくくなるので、東南アジアの市場では低品質のふかひれが増価する。近年の東南アジアの市場占有率は世界の 10-21%で推移してきたが、中国の輸入が増価してからは減少の傾向にある。